



様々な土器・各種石器



尖石遺跡出土の縄文土器



各種の土器や土偶



様々な種類の装飾品

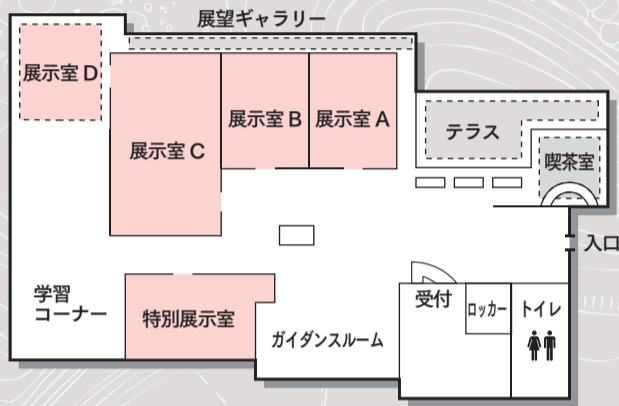


縄文時代の狩猟具や工具



各種の打製石器と磨製石斧

館内のご案内



■ 展示室
 ■ 休憩ゾーン

棚畑遺跡地形図

尖石縄文考古館

TOGARIISHI MUSEUM OF JOMON ARCHAEOLOGY

観覧料

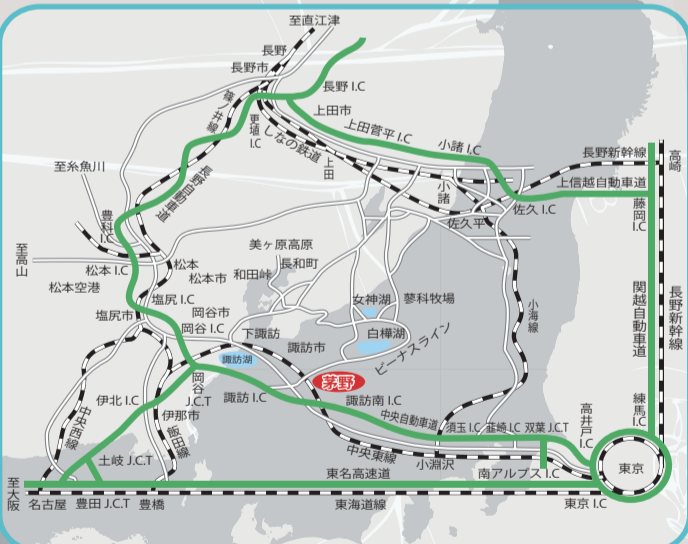
個人：大人 500 円・高校生 300 円・小・中学生 200 円
 団体 (20 人以上)：大人 400 円・高校生 200 円・小中学生 150 円

開館時間

9:00~17:00 (入館は 16:30 まで)

休館日

毎週月曜日 (休日の場合を除く) 年末年始 (12/29~1/3)
 休日の翌日 (この日が休日、土・日曜日の場合を除く)



縄文時代の衣類・食料・住居



縄文人の衣類

縄文時代には糸を編んで作った布が使われていました。「編布 (あんぎん)」と呼ばれる布です。縄文時代にはこの布で衣服が作られていたと考えられています。衣服のデザインについては、不明ですが「土偶」の文様は衣服を表現している可能性が検討されています。



縄文人の食べ物

縄文時代の人々は、八ヶ岳の豊かな森がもたらす自然の恵みを利用して生活していました。季節に応じて、シカやイノシシを狩り、川で魚などをとり、木の実を採集し、一年間暮らしていくことができるだけの食糧を保存していました。最近では、マメやヒョウタンなどを栽培していたこともわかっています。



縄文人の住居

縄文時代の家は、「竪穴式住居」と呼ばれています。地面に大きな穴を掘って土壁と床をつくります。さらに床に穴を掘って柱をたて、その上に屋根をかけた住居です。床には火をたく炉が作られ、なかには祭壇が作られた住居もあります。



中ツ原遺跡地形図

ガイダンスルーム

考古館や史跡公園の案内、国宝「土偶」(縄文のビーナス) についての映像番組を鑑賞していただけます。考古学をテーマとした講演会も開催されるスペースです。



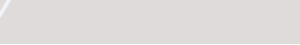
展示室 A 特別史跡尖石遺跡

日本で初めて縄文時代のムラが発掘された尖石遺跡・与助尾根遺跡と、発掘を行った茅野市名誉市民宮坂英式 (ふさかず) 氏の研究業績を紹介いたします。



展示室 B 縄文のビーナス(国宝)と仮面の女神(国宝)

棚畑遺跡から発掘され、縄文時代の遺物として初めて国宝に指定された土偶「縄文のビーナス」、中ツ原遺跡で発掘された国宝「仮面の女神」を展示しています。縄文文化を代表する2つの土偶について、出土状況の模型や写真を使って展示しています。



展示室 C 八ヶ岳山麓の縄文文化

今から5000年前から4000年前の豪華な装飾を施された土器を中心に、八ヶ岳山麓に栄えた縄文文化について多彩な遺物を展示しています。



特別展示室

縄文文化を中心とした特別展示を開催します。



展示室 D 縄文時代の暮らし

縄文時代の衣食住や四季折々の暮らしぶりについて、模型や映像、体験学習を通じて体感していただく展示室です。

学習コーナー

縄文土器・土偶作りができる体験学習コーナーです。考古学に関する図書も閲覧できます。

茅野市尖石縄文考古館

〒391-0213 長野県茅野市豊平 4734-132
 Telephone 0266 (76) 2270
 Facsimile 0266 (76) 2700
 Website <http://www.city.chino.lg.jp/togariishi>
 E-mail togariishi.m@city.chino.lg.jp

土器と文化の移り変わり



尖石縄文考古館について

尖石縄文考古館

八ヶ岳山麓の美しく豊かな自然を舞台に、今から約5000年の昔、縄文文化が繁栄しました。尖石遺跡はそうした八ヶ岳山麓の縄文文化を代表する遺跡です。

尖石縄文考古館は、尖石遺跡の出土品をはじめ、わが国最初の縄文時代の国宝「土偶」(縄文のビーナス)と国宝「土偶」(仮面の女神)など、八ヶ岳山麓の縄文遺跡から発掘された2000点余りの優れた考古資料を展示してあります。

縄文文化の研究や体験学習に、また、家族の憩いの場として広くご利用いただければ幸いです。

宮坂英弐氏の尖石遺跡の発掘

宮坂英弐氏は小学校の教員をつとめながら考古学の研究を行いました。戦前から八ヶ岳山麓の縄文遺跡の発掘を行い、特に尖石遺跡は独力で発掘を続け、日本ではじめて縄文集落の全容を明らかにしました。また、与助尾根遺跡でも縄文集落を発掘しました。宮坂氏の尖石と与助尾根遺跡の発掘は、縄文時代集落研究の原点となる成果をもたらしました。

晩年には尖石考古館の初代館長、長野県考古学会の初代会長等をつとめ、考古学の普及に尽くしました。



特別史跡尖石遺跡

八ヶ岳西山麓の標高1070mの台地にある縄文時代中期の遺跡です。宮坂英弐氏により昭和5年から発掘調査が行われ、多数の竪穴住居址や炉跡等とともに土器や石器が発掘され、中部山岳地帯の高原地に繁栄した縄文時代中期の文化と集落が明らかにされました。

尖石遺跡は学術上の価値が特に高く、わが国文化の象徴として昭和27年に特別史跡に指定されました。また、湧水のある浅い谷を間に、尖石遺跡の北側に隣接する与助尾根遺跡も平成5年に追加指定されました。



尖石

遺跡の南斜面にある高さ1m余りの三角錐状の大きな石で、「とがりいし」と呼ばれています。尖石遺跡の名前の基となった巨石で、縄文人が石器を研いだ石ともいわれています。

蛇体把手付深鉢 Pottery with snake-shaped handle

土器の縁に、口を開いた蛇体が塑造加飾されています。器面に縄文がつけられた高さ19.5cmの深鉢形土器です。完全な形で発掘された、尖石遺跡を代表する縄文土器です。



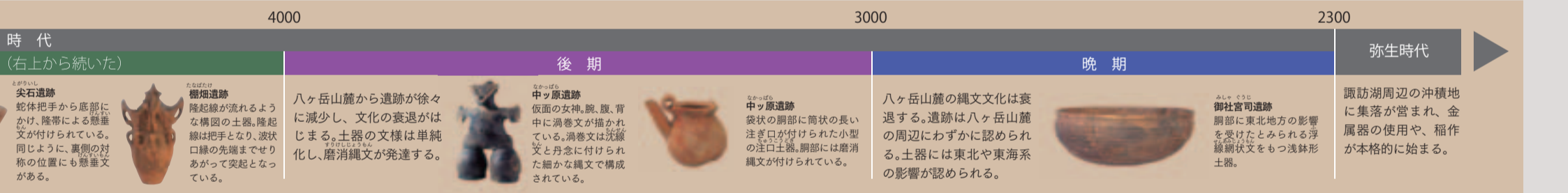
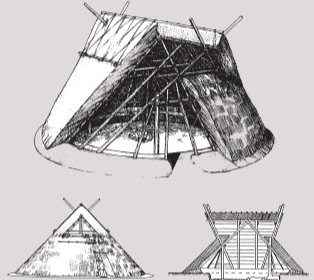
縄文時代中期 尖石遺跡

与助尾根遺跡の復元住居



与助尾根遺跡は、宮坂英弐氏により昭和21年から27年にかけて、縄文時代中期の竪穴住居址28箇所が発掘された遺跡です。このうち、同じ時期の住居の6棟に復元住居を建設し、ある一時期に存在したと考えられる縄文集落の復元を試みました。復元住居は堀口捨己工学博士が設計した図面をもとに建設したものです。

集落の南側には湧水があり、縄文人の水場であったとみられます。復元住居の周囲にはナラ、クリなどの実をつける落葉広葉樹の森が広がり、縄文人の暮らしを体感できる場として活用されています。



尖石史跡公園マップ

尖石遺跡は、史跡公園のセンターとしての考古館を中心に、縄文時代の生活が体感できる場として整備が進んでいます。この尖石遺跡と豊かな自然に恵まれた環境を活用した、次代を担う青少年のための原体験施設である、青少年自然の森が設けられています。



国宝「土偶」 (縄文のビーナス) 棚畑遺跡出土 The Jomon Venus

集落の中央広場の小さな穴から、完全な形のまま埋納された状態で出土しました。八ヶ岳山麓の縄文時代中期の土偶の特徴をよく表しています。造形的にも優れており、発掘調査による出土状態が明らかである点などから、平成7年に国宝に指定されました。

土偶は、主な骨格を粘土で組み立て、良質な粘土で肉付けし、安定感のある姿を形作っています。表面はよく磨かれて光沢を放ち、雲母が部分的に輝いています。小さく縁どられた顔、横に広げた腕、妊娠を表す腹部、大きく安定感のある腰と尻、太い足でしっかり立つ、人間味あふれる表情豊かな姿が特徴的です。



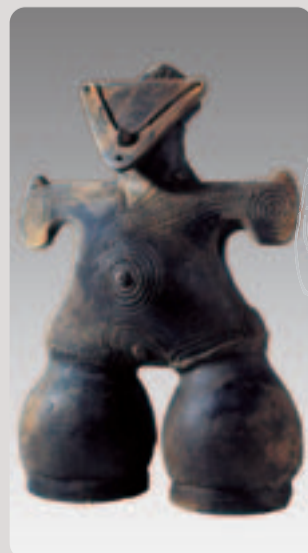
縄文時代中期 棚畑遺跡
高さ 27 cm ・ 重さ 2.1 kg

国宝「土偶」 (仮面の女神) 中ノ原遺跡出土 The Masked Goddess

縄文時代後期の仮面表現をもつ土偶です。文様は丁寧につけられ、造形的にも優れています。また、墓と考えられる穴から副葬された状態で出土した数少ない土偶で、平成26年に国宝に指定されました。

土偶は、輪積みによる製作技法で作られています。そのため、内部は空洞です。表面は光沢が出るほどよく磨かれ、黒いぶして焼かれています。

大地にどっしりと立つ太く大きな足、張り出した腹部、逆三角形の仮面を被ったような姿が大きな特徴で、神秘的な雰囲気醸し出しています。



縄文時代後期 中ノ原遺跡
高さ 34 cm ・ 重さ 2.7 kg